

時間的コスト量と話し手の発言内容が 共同のコミットメント形成に及ぼす影響

○榎生仁子¹・平川真²

(広島大学教育学部¹, 広島大学大学院人間社会科学研究科²)

目的

人が「約束事が成立した」と判断する材料は何だろうか。Bonalmi et al. (2020) より、「論文の締め切りは一週間後よ」「分かりました」のような共通の理解を得たことを示唆する明示的な手掛かりがあるときは共同のコミットメントを形成し、逸脱に対して非難する傾向にあることが分かっている。

また, Bonalmi et al. (2019) は, 発話などの明示的な手掛かりが示されない状況では, その共同行為に費やしてきた時間が長いほど, 共同のコミットメントを形成していると捉えることを示した。

しかし, その両方を同時に検討した実験はなく, 明示的な手掛かりと時間的コストの両方が同時に示された時, 双方の要因が共同のコミットメントを形成したという判断にどの程度の影響を及ぼすのかは明らかとなっていない。

そこで本研究では, 共同のコミットメント形成時の時間的コストと話し手の発言内容の影響を同時に検討するため, 発言内容および時間的コスト量を操作した 2×2 の参加者間計画での実験を実施した。

方法

実験計画 2×2 の参加者間計画

分析対象者 20~70 代の男女 718 名

手続き 時間的コスト (低/高) と発言内容 (個人的行為約束条件/共同的行为約束条件) を組み合わせた 4 種類のシナリオを作成した。具体的には, それまで A と B がその共同行為に費やした時間を明記したうえで A が共同行為を示唆する発言 (「明日, 一緒にジョギングをしよう」) もしくは個人的な行為を宣言する発言 (「明日, ジョギングするつもりだ」) をしたのち, B が「わかった」と返答し, B がジョギングを行わないというものであった。

従属変数の測定は, 次の 3 つの指標を用い, それぞれ 5 件法で行った。①A が B の行為を非難すること (e.g., ああいう会話をしたのに, なぜ昨日来なかったのか) の適切性, ②B が謝罪や説明を行わないことの適切性, ③B が言い抜け (e.g., 「わかった」は「一緒にジョギングをする」という意味ではなかった) を行うことの適切性。なお, 参加者にはこの 3

つの指標のうち 1 つを回答させ, その割当はランダムとした。また, 共同のコミットメントが形成されているほど, ①の適切性は高く評価され, ②と③の適切性は低く評価されると考えられる。

倫理的配慮 著者の所属機関が設置する倫理審査委員会の承認 (HR-PSY-002048) を受けた。

結果と考察

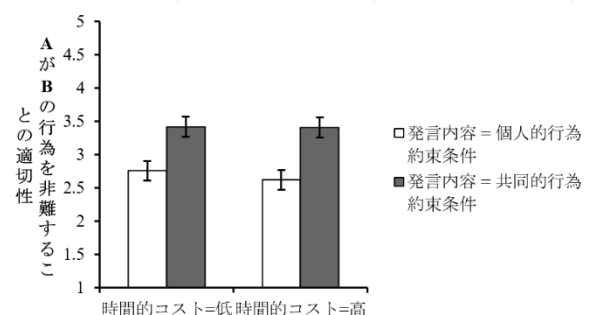
時間的コストと発言内容が適切性判断に及ぼす影響を検討するため, それぞれの指標を従属変数, 時間的コストと発言内容を独立変数とする 2×2 参加者間分散分析を行った。

Figure 1 に A が B の行為を非難することの適切性を従属変数とした分析の結果を示す。発言内容の主効果が有意であり, 個人的行為約束条件よりも共同的行为約束条件の方が, 評定値が高いことが示された ($F(1, 232) = 22.840, p < .001$)。一方, 時間的コストの主効果および発言内容と時間的コストの交互作用効果は非有意であった。なお, 残りの 2 つの指標についても, 結果のパターンは同様であった。

これらの結果から, 発言内容の違いが共同行為を約束したという判断に強い影響を与えると結論付けた。Bonalmi et al. (2019) が示した時間的コストの効果は, 明示的な手掛かりがない状況においてのみ生起するのかもしれない。

Figure 1

A が B の行為を非難することの適切性



引用文献

- Bonalmi, F., Isella, M., & Michael, J. (2019). *Review of Philosophy and Psychology*, 10, 669-688.
- Bonalmi, F., Scott-Phillips, T., & Tacha, J., & Heintz, C. (2020). *Language and Cognition*, 20, 360-384.